

平成 23 年 1 月 7 日(金)

財団法人ボーイスカウト日本連盟主催事業

【第 18 回全国スカウトフォーラム】

奉仕報告書



神奈川県連盟横浜地区横浜第 8 団
ローバースカウト隊

梅山 俊則

【目次】

目的・目標・概要	3
日程表	6
プログラムについて	7
フォーラムを終えて	10
参考資料	11

【目的】

18SFを通し、フォーラム運営について多くのことを団・地区・県連にお持ち帰りを
する。

【目標】

- 1) 担当グループのスカウトがフォーラムを無事に終わられるよう、的確なアドバイ
スを行う。
- 2) アイスブレイク・アクティビティ・朝の集いを行うに当たってスカウトをうまく
誘導する

【役務】

第3グループ (The 23rd World Scout Jamboree) のアドバイザー

【概要】

第18回全国スカウトフォーラムについて

1. 期 日：平成22年12月25日(土)～27日(月) 2泊3日間
(集合) 12月25日(土) 12:30
(解散) 12月27日(月) 14:00
2. 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟416号室
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
3. 参加対象：各都道府県連盟代表ベンチャースカウト 1人ずつ、合計47人
4. フォーラムテーマ：**Creating a Better World** (「よりよい世界を創ろう」)
今回のフォーラムでは、テーマをより深く理解するため、4つのサブテーマを設定し
ました。

(1) 環境から

「**Global Warming (地球温暖化)**をはじめとする **Global Environment (地球環
境)**」

*この2年間で「地球温暖化」への取り組み、CO2削減は、国も企業も個人も「当たり
前の対応」と言える状況になりました。今や、「温暖化対策」だけではなく、「なぜ温暖化
になったのか? 温暖化でどうなっていくのか?」から「本当に温暖化なのか?」の論議ま
で様々です。

*単に地球温暖化だけでなく、「水質や大気、土壌などの環境汚染、干ばつや集中豪雨、猛暑、冷夏などの自然災害の発生、食物連鎖、食料問題」などが、それぞれ絡み合っていることが明白になってきていますし、「環境問題は国境を越える課題である」との認識も浸透してきました。

*環境省が進めている「チャレンジ25キャンペーン」に、日本連盟も賛同し協力しており、これらと連携することによる効果も期待します。

*今回は敢えて「環境問題全般をテーマ」とし、その中で「何が出来るか、身近な視点から考えてみる」こととして、より大きなテーマとして協議します。

(2) 国際交流から

「The 23rd World Scout Jamboree (第23回世界スカウトジャンボリー)」

*日本で約45年ぶりに開催されるWSJにおいて、「日本のボーイスカウトとして、何を世界に発信するべきなのか?」、そのためには「今のベンチャースカウト達は、開催までに何を考え、どんな行動をしておくべきなのか?」について、意見交換が必要であり、協議します。

*23WSJを全国フォーラムで取り扱うことは、昨年開催された平成21年度ユースフォーラムの提言でも推奨されていたことであり、フォーラムの連続性を考える上でも意味があります。

*スカウト目線での意見は、これからのWSJ検討各特別委員会に、プログラム委員会から提案する計画です。

(3) 前回からの継続性として「Leadership (リーダーシップ)」

*前回の第17回全国スカウトフォーラムのサブテーマの1つであり、第11回世界スカウトユースフォーラムのサブテーマ Empowering young adults (青年に力を与える) のトピックの1つでもあります。

*単に継続性ということだけでなく、基本的には「スカウト達が求めるリーダーシップとは? ベンチャースカウトとしてのリーダーシップとは?」になりますが、2年前に先輩スカウト達が採択した内容も再度確認してもらい、必要なら補完してもらうことも含めて協議します。

(4) 新たなテーマとして「Scouting and technology (スカウティングとテクノロジー)」

*現在のリーダーとスカウトの「ジェネレーションギャップの最たるものがテクノロジー」との声をよく聞きます。これはボーイスカウトだけではないでしょう。

*第11回世界スカウトユースフォーラムのサブテーマ World Wide Movement -

Scouting（世界の運動体としてのスカウティング）のトピックの 1 つです。最新の情報機器等と、従来のスカウティングとのあり方について協議します。

*現在のローバースカウト年代まで（要はスカウト年代全て）は「小学校 1 年生からパソコン授業を必須で受けてきた世代」です。リーダー世代とは「育ってきた環境、テクノロジーに関する感覚、感性」自体が異なります。「資金面など現実的問題」も存在しますが、ざっくばらんな意見交換と協議を期待します。

*23WSJを見据えても、技術力は有する日本として、何らかの世界に発信できるボーイスカウトとしてのテクノロジーは必要でしょう。この部分は、リーダー目線では無く、様々な最新テクノロジーの中で育ってきたスカウト達の目線が必要との認識で協議します。

【第 18 回全国スカウトフォーラム 日程表】

第1日		第2日		第3日	
12月25日(土)		12月26日(日)		12月27日(月)	
-06.00		-06.00	起床・洗面・清掃	-06.00	起床・洗面・清掃
-07.00		-07.00	朝食 <small>センター棟 ふじ</small>	-07.00	朝食 <small>センター棟 ふじ</small> (平行して宿泊室チェックアウト)
-08.00		-08.00	メデイテーション <small>センター棟 416号室</small>	-08.00	朝のつどい
-09.00	リハーサル他	-09.00	各県連盟フォーラム(発表)	-09.00	全体会Ⅱ 採択準備 <small>センター棟 416号室</small>
-10.00	スタッフミーティング 最終準備	-10.00	リフレッシュメント	-10.00	リフレッシュメント
-11.00		-11.00	分科会Ⅰ <small>センター棟 グループ別 各部屋</small>	-11.00	全体会Ⅲ 採択文
-12.00	受付準備 集合・受付	-12.00	昼食 <small>センター棟 ふじ</small>	-12.00	閉会式
-13.00	開会式 <small>センター棟 416号室</small>	-13.00		-13.00	参加者への連絡 <small>センター棟 416号室</small>
-14.00	生活オリエンテーション	-14.00	分科会Ⅱ <small>センター棟 グループ別 各部屋</small>	-14.00	
-15.00	アイスブレイキング	-15.00	リフレッシュメント	-15.00	退所・解散
-16.00	リフレッシュメント	-16.00		-16.00	
-17.00	フォーラムオリエンテーション (フォーラム導入)	-17.00	分科会Ⅲ <small>センター棟 グループ別 各部屋</small>	-17.00	
-18.00	夕食 <small>センター棟 ふじ</small>	-18.00	夕食 <small>センター棟 ふじ</small>	-18.00	
-19.00	基調講演 <small>センター棟 416号室</small>	-19.00	全体会Ⅰ 各グループの発表 <small>センター棟 416号室</small>	-19.00	
-20.00	今日のふりかえり	-20.00		-20.00	
-21.00	宿泊室チェックイン	-21.00	今日のふりかえり	-21.00	
-22.00	入浴 <small>宿泊B棟 ユニットバス</small>	-22.00	入浴 <small>宿泊B棟 ユニットバス</small>	-22.00	
-22.00	消灯	-22.00	消灯	-22.00	

【プログラムについて】

(1) アイスブレイキング

グループ毎に 9 つのゲームと全体で 3 つの計 12 個を実施。静から動まで様々なゲームをこなし全体の雰囲気を良くする。

アイスブレイキングは R S 主導で行った。



(2) アクティビティ

議論の導入として取り入れた。ゲームの形でグループワークを行い、参加スカウトの個性を見る。内容としては「月からの脱出」であり、その際に必要なものの順位付けを合意形成で行っていく。R S 主導で実施。

(3) 基調講演

講演者：環境省 自然環境局 自然ふれあい推進室長 堀上 勝 氏

テーマ：よりよい世界を創ろう

「生物多様性」をはじめとする環境面から国際理解、テクノロジー、リーダーシップとほかのサブテーマと関連付けてお話をしてくださいましたが、ベンチャースカウトには難しい話のようだった。私は「うんうん」とうなずける場面もありいくつかのビジョンを作れたが、採択文やアクションプランにはあまり反映されていない。

また、参加スカウトの前提知識の低さやマナー（聞く態度、質問の態度）の悪さも目立ち残念であった。

(4) 県連スカウトフォーラム報告の発表

代表者がそれぞれ書いてきた模造紙を会場内に張り出し参加スカウトが興味を持った者に投票。上位 10 位までが発表する。1 人当たり 5 分以内。

※10 位が同数で 2 名となったため、計 11 名の発表となった。

1 : 三宅 晶子 (神奈川) 2 : 小山 徹 (岡山) 3 : 佐々木 雄大 (青森) 4 : 石丸 諒 (東京)
5 : 岩井 莞 (京都) 6 : 川下 和樹 (愛知) 7 : 西村 信宏 (石川)
8 : 高崎 真希 (香川) 9 : 吉岡 慶子 (長崎) 10 : 村田 裕子 (福井) 10 : 林 愛子 (岐阜)

(5) 分科会 I・II・III

グループ内で議長・書記・タイムキーパーを決めたらひとまずアドバイザーの役割は終わり。あとはスカウトたちの自主運営に任せた。アドバイザーはアドバイスはするが誘導はしない。

それぞれのグループが割り当てられているサブテーマに関して、さらにどのように焦点を当てていくかを議論し、アクションプランの作成、全体会での発表練習まで行った。

私はグループワークの手法の紹介、WS J がどのようなものかの説明をグループ内に行い、あとはグループの議長への支援に徹底した。



(6) 全体会 I

全体会前に議長団の選出 (各グループ 1 名 計 8 名) を行い、全体会 I を行った。全体会 I では各グループの発表、同じテーマのグループ同士のアクションプランの摺合せを行った。



(7) 起草委員会 (2 日目 22 時から 3 日目 5 時まで (V S は 3 時まで))

各グループ選出の議長団によって採択文・アクションプラン・提言文の原案を作成。3 時までに議長団が完成させ、5 時までに有志のアドバイザーがスペルチェックや書体の統一化を行った。

(8) 朝の集い

R S 主体で朝の集いを実施。「自由な朝礼をしてほしい」という実行委員会からの要望だったので、ゲームを織り交ぜ、ゲームの勝者には全体会にかけの意気込みなどを語ってもらった。



(9) 全体会Ⅱ・Ⅲ

起草委員会が作成した原案の参加者に発表し加筆・訂正。最終的に満場一致で採択となった。



【フォーラムを終えて 今後について】

18SFを終えて、今回はたくさんの「お土産」を持って帰ることができた。それはアイスブレイクからアドバイスの方法まで多くのことを私自身の「学び」である。それらは今後、自分がフォーラムに関わる際に活かしていきたい。

この今回のフォーラムではアドバイザーは事前に1泊2日の研修を行っており実際にミニ・フォーラムを行い、アイスブレイクゲームの体験もすべてした。これは経験が少ないRSにとっては非常に有効であったように思える。今後は県連・地区単位でも行っていければ、と思う。

18SFに参加していたVSについてであるが、県連によりばらつきがあるように感じた。神奈川のようにスカウトの互選の県もあれば、県上層部による指名の県もあり（県フォーラムを開催していない県もあり）、スカウトのモチベーションもさまざまであった。それに伴い、基礎知識や一般的マナーにもばらつきがあったように思える。これは小さく見れば神奈川県連内・地区内にも起こっていることであり、今後、今回の採択文にもあるインターネット等、情報の活用などにより解決の糸口を探るべきだと考えられる。ただし、今回のフォーラムでは話題にならなかったが、インターネットにもルール、マナーがあり近年はそれを守れないVS・RSが残念ながら多いことが明らかになってきている。それらについては一度、「情報安全講習会」のようなものをスカウト向けに開く必要性を感じた。

今回のフォーラムの運営はスカウトに接する表向きの部分は常に実行委員会のRS・アドバイザーのRS・奉仕のRSが行っており、世界スカウト機構（WOSM）のスカウティング戦略における青年参画の一つとされた。この取り組みは日本連盟における日韓・日米フォーラムでも行われており、周囲に良い影響を与えているように思えた。（今回の場合ならば参加VSに、これを団や地区で応用すれば幼年スカウトや年少スカウト、その保護者、一般の人へのPRにもなる。）

参考資料

【採択文・アクションプラン・提言文】

第 18 回全国スカウトフォーラム

私たち、第 18 回全国スカウトフォーラム参加者は国立オリンピック記念青少年総合センターでの 2 泊 3 日にわたる議論を通し、「Creating a BetterWorld」のテーマのもと、全国のベンチャースカウトが具体的なアクションを起こすべく、以下のことを採択し提言します。

採択文

(1) Global Warming (地球温暖化)をはじめとする Global Environment (地球環境) 地域の人々に人間と自然が共生することに興味をもってもらおう!!

アクションプラン

一前回の第 17 回全国スカウトフォーラム実施後は、「エコフェスタ」という言葉が独り歩きする状態で、採択文に具体的な内容がまったく記されていないことを鑑み、

- ・第 19 回全国スカウトフォーラムまでに、各県連盟ごとのベンチャースカウト主催で「啓発イベント」を開始し、地域の人々のエコ意識を高めていく。「啓発イベント」では、エコキャップの活動や、スカウトのエコ活動の宣伝と自然との共生の宣伝をする。

- ・「啓発イベント」を通して高まった意識を「体験型イベント」を実施することにより、さらに向上させる。「体験型イベント」では、古紙再生、EM菌石けん・リサイクル石けん作り地産地消の自然共生を体験できるイベントを行い、一般の人に楽しみながらエコを知ってもらう。イベントの形は、県連盟の状況により、イベントやウォークラリー等のどの形式で行ってもよいこととする。

(2) The 23rd World Scout Jamboree (第 23 回世界スカウトジャンボリー)

海外のスカウトとうまくコミュニケーションをとるために、スカウトの「和」を広げよう。国内スカウトの和(まとまり)を強め、世界に日本の和(文化)を知ってもらい、世界の和(平和)に関心を持ちスカウトの和(繋がり)を築こう。

アクションプラン

- ・全県連盟がWTW(ウェルカム・ザ・ワールド・プロジェクト)に参加していることを前提にして、各県連盟のベンチャースカウトがWTWの相手国と 2015 年の第 23 回世界スカウトジャンボリーまでにインターネットや手紙などの通信手段を通じて、各都道府県や日本の文化を紹介し、相手国の文化を紹介する。

- ・ベンチャースカウトがリーダーシップをとり全県連盟で協力して 2015 年の第 23 回世界スカウトジャンボリーで海外スカウトとの交流の手助けとなり、その後のスカウトの交流

を促進させるために「和ッペン」シリーズを製作する。

- ・ベンチャースカウトが中心となり、各県連盟での案をまとめ、統一化し、共有するための「プロジェクトチーム」をつくる。
- ・インターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用して、海外に「和ッペン」シリーズの宣伝をする。

(3) Leadership (リーダーシップ)

自分の理想とするリーダー像を目指す!!

アクションプラン

ー全てのスカウトに頼られるベンチャースカウトになるために

- ・ベンチャースカウトがグリーンバーに 2011 年 8 月末までに、身近な活動単位である各地区ごとに「グリーンバー訓練キャンプ」を企画・計画し、ベンチャーへの講習会を開き、実践し、評価反省を行う。初めてやる人に対しての講習会を開く。
- ・ベンチャースカウトが自分たちの社会的技能、野外活動技能を高めるために「グリーンバー訓練キャンプ」を継続して実施する。

(4) Scouting and Technology (スカウティングとテクノロジー)

Technology for tying friends. [友達をつなぐテクノロジー] を日本のボーイスカウト活動の独自色とし、地域間のスカウトの交流を促し活動を活発化させる。

アクションプラン

ー現状は、各団、各県連ごとにホームページやブログの有無に大きなばらつきが存在している。県の活動などで知り合ってもその後、交流が続かない事が多いため、地域間の活動の幅に大きなばらつきがあり

ー他地域の意見を聞くことにより、より良い活動につなげていくため、

- ・アフターフォーラム後の隊単位での会議、活動内容をインターネットで発信し、他団のスカウトと意見交換をする。

ー地域間スカウトの交流のために所属団の活動を知ってもらい、広報活動の活発化により加盟員の増加や地域、世界基準のボーイスカウトになる

- ・ベンチャー隊が中心に団でホームページ又はブログを作り更新する。
- ・通信機器を利用し、他地域の個人間での交流を促進する。

ー掲示板という比較的簡単に話す機会を作ることで、地域ごとの活動の格差を是正し、他団、他県連盟のスカウトとの交流、活動を促進するため、

- ・2011 年 12 月から 2012 年 12 月までの期間を目安に、各都道府県でホームページや掲示板を作り、積極的に更新する。

【スタッフリスト】

第 18 回全国スカウトフォーラム実行委員会

膳師 功 委員長 (日本連盟理事・プログラム委員長)

真山 明夫 委員 (日本連盟プログラム副委員長)

碓井 健文 委員 (日本連盟プログラム委員)

前崎 信博 委員 (日本連盟広報委員)

鷺坂 史明 委員 (岩手県連盟盛岡第 5 団ローバー隊)

高橋 一樹 委員 (京都連盟与謝第 1 団ローバー隊)

フォーラムアドバイザー

多田 浩樹 第 1 グループ担当 (大阪連盟大阪第 1 2 3 団ベンチャー隊副長)

梅山 俊則 第 3 グループ担当 (神奈川連盟横浜第 8 団ローバー隊)

西尾 崇伸 第 4 グループ担当 (静岡県連盟大井川第 3 団ローバー隊)

吉田 菜津美 第 5 グループ担当 (京都連盟京都第 2 5 団ローバー隊)

仲村 元氣 第 6 グループ担当 (愛媛県連盟新居浜第 2 団ローバー隊)

羽根田 賢 第 7 グループ担当 (愛知連盟豊田第 1 6 団ローバー隊)

川口 保奈美 第 8 グループ担当 (宮崎県連盟宮崎第 4 団ローバー隊)

奉仕スタッフ

川守田 智 (岩手県連盟盛岡第 5 団ローバー隊)

原口 直子 (静岡県連盟富士第 9 団ローバー隊)

ボーイスカウト日本連盟

新藤 信夫 日本連盟コミッショナー

(事務局)

吉田 俊仁 事務局長

黒田 節子 事務局教育部長

吉田 友訓 事務局教育部プログラム課長

依田 須美子 事務局プログラム課

島田 八千代 事務局プログラム課

石黒 秀彦 事務局プログラム課

岡田 誠 事務局プログラム課